

51 比企谷幼稚園

お寺の六角堂のような幼稚園。妙本寺の参道のシンボリックな建物。純和風の建築を活かして幼稚園に現役で使用されており、地域の人々に親しまれています。幼稚園の建築としてはおそらく日本屈指の特徴的な建物です。



■大町一丁目

52 小林カバン店から生まれ変わった“みんなの食堂「COBAKABA」”

両親が営んでいた創業60年の小林カバン店という小さな商店を改装し、2006年に家族で“みんなの食堂COBAKABA”を開店致しました。コバカバの名前の由来も小林カバン店を受け継いでおり、昭和の当時から珍しかった丸窓や時代を感じさせる天井の梁を活かすことで以前と同じように地域の方々に親しまれるお店づくりを目指しました。これからもごはんを通じていろいろな人がつながりあえる場を創っていきます。



■小町一丁目

53 材木座の家

築130年の古い民家の改修工事です。

もとの佇まいをできるだけ残しながらも快適な生活を送れるよう手を加えました。

手を加えたことにより家主の家への愛着がさらに深まり、改修前よりも周囲の雰囲気よくなったのではないかと思います。



■材木座六丁目

54 材木座らくご会

材木座にある浄土宗大本山・光明寺の本堂で春と秋の年に2回開催される落語会です。

「サンダル履きでいける気軽な落語会」がコンセプトでこども（小学生以下は無料）から大人までいっしょになって笑う場を創造しています。

大きくて古いお寺の本堂から老若男女の笑い声があふれる様子はとてもいい光景です。



■材木座六丁目

55 海から収穫された杉材によるリノベーション

築70年を超える普通の古屋をリノベーションした住宅です。立派な小屋組があることがわかり、一切手をつけず、内部に現しています。さらに、イワシの生け簀の杉材を古材としてリサイクルし、山から海へ、そして陸へという湘南らしい素材の循環を考慮に入れてデザインされています。よう壁は、フランドル煉瓦積み風の記憶の残るよう壁のリズムを先程の杉材のデザインの中に取り入れ、神奈川の近代の歴史を継承しました。



■稲村ガ崎

56 小町の家々

年月を経るほどに風格が増す建物とはこういうことかと常に思わせてくれる存在です。

日本の住宅建築の美意識を誇りに思います。琴弾橋のたもとに両邸が向かい合って存在していることで、失われつつある日本のよさを静かに支えてくれているような観があります。

既に様々にとりあげられている邸宅ですが、やはり応募したくなる建物の筆頭格です。



■小町二丁目

57 「泉の井」のある路沿いの家々が作り出す景観

どの建物と特定するのは無意味と思える程、各戸の建物と生け垣や塀が一体となって、「泉の井」に続く長いゆるやかな登り坂の行き帰りを、心豊かなものにしてくれます。古い建物や昔ながらの生垣の家々の間に、洋風の家づくりをした玄関アプローチなど新しい趣を見せる家が散見されるのも味わいのひとつと言えるのではないのでしょうか。古い建物を住み継がれていらっしゃるお家が依然として多く存在しているからこそです。



■扇ガ谷二丁目

58 「鎌倉彫 後藤久慶」の店構え

交通量が多く歩道もないあわただしい通りに、古都の風情を、一瞬よびさます店構えです。古刹の屋根瓦を配した白い石塀、実に狭いアプローチ乍ら、入口脇の梅の古木と敷石の工夫、竹やトクサの植栽、玄関引戸も木製のままです。道路から見える玄関内土間の趣ある展示スペース、そこに置かれた作品そのもの（鎌倉彫）が、単なる観光みやげでない、伝統的な技術から生み出されるものであることを如実に語ります。風格ある景観づくりに貢献しています。



■雪ノ下二丁目

59 浄明寺界隈

浄明寺参道両側の家並は各戸道路際に植えられた桜が並木をなし、落ち着いた景観をつくっています。なかでも参道入口右側の邸宅は、立派な門構えと生垣、雰囲気のある家屋で一段と存在感があります。



■浄明寺三丁目

60 小町通り「理容ハッピー」

「鎌倉に住んでよかったな〜」と思える建物と室内の雰囲気が残り、半世紀の歴史を物語るのがこの理容店の存在です。建物は関東大震災時に建てた物件で、県外から来てくれたボランティアの青年大工の皆さんが建ててくれたもので今でも出来る限りそのまま維持しているため、昔の床屋さんを満喫できます。多くの鎌倉市民にとって「暮らしの中の大切な場所」として愛されている建物および生活が景観として生きると思っています。



■小町二丁目

61 緑の中の小さな古民家

築80年になろうかというこの家にひかれ、住み始めて12年。特別にこったわけではないごく普通の小さな古民家。しかし、何か品格を感じさせるたたずまいの家なのです。そこには職人さんたちの風土に根ざした目利き、手技といった丁寧な仕事が、年月を経て今も息づいています。

「住まう」「暮らす」ことで今まだ残されている有形・無形の貴重なものを大切にできたらとの思いです。

■浄明寺一丁目



62 古い日本家屋の日本料理店「八百善」

立派な門構えと緑豊かな植栽で奥床しさを感じさせる懐石料理の店です。建物は100年近いといえます。

室内の建材も竹や檜などを用い、様々に意匠を凝らして作られ、寂びた風情が年月を感じさせます。「八百善」は江戸時代創業の名料亭です。かつての東京での料亭とは異なる形で、ここ鎌倉で趣きある和風建築を利用して、現代に合わせた空間をつくり出しています。伝統的な建物で、伝統の日本料理という日本文化を気軽に体験できます。

■十二所



63 稲村ガ崎D邸と聖路加看護大学セミナーハウス

ハワイを感じさせる清廉な邸宅です。門前のシンボルツリーが个性的で素晴らしいです。建物は、薄いブルーの外壁に、明るい柿色の玄関ドアという巧みなコントラストです。簡素でありながら忘れ難く心に刻まれます。潮風と陽光あふれるこの辺りを象徴するような建物です。道路を挟んで向かい側の聖路加セミナーハウスの赤茶に白い窓枠という典型的なアメリカ風建物とともに、この2軒だけで、日本的雰囲気とは異なる景観を見事に創り出しています。

■稲村ガ崎三丁目



64 若宮大路 鈴木表具店

見事な和風建築が堂々とした姿を八幡宮の間近に見せています。店部分のこじんまりとしたつくりと後方の住宅部分の大きな2階家の外観が、両者をつなぐ玄関によって巧みに融合され風格ある建物になっています。

この建物を住み継ぐべく改装中と伺いました。古都鎌倉の面目躍如たる建物としていつまでもここに存在してほしい建物です。

■雪ノ下一丁目



65 魚利

古きよき時代より地元鎌倉人の日常の食卓にとってなくてはならない存在だったと思われる「魚利」魚店です。

建具、什器、水道設備など、その当時のなつかしい雰囲気そのまますかした中で、現代の地元鎌倉人の暮らしを支え続けている貴重な魚店です。

■二階堂



66 鎌倉石の石垣

かつて石切場であった谷戸、住居や田畑を造るために積まれた石垣、道路から家への通路の石垣など、そこかしこに鎌倉石の石積が残され、今もそこに住む人々に大切に使用され、暮らしにとけこんでいます。

また石垣に育つイワタバコやタツナミソウなどなど、数多くの草花も大切にされ、谷戸独特のしっとりとした景観を創り、生活に一層の潤いを与えています。

■浄明寺二丁目



67 関東大震災でも倒壊せず！庶民文化を残す「有隣亭」

1. 建築後103年、「田の字型」間取りと関東大震災で倒壊しなかった建物。
2. 三間続きの部屋にはエアコンもなく、時には風通しい大広間にも変身。
3. 本建物「有隣亭」は生活の場と併せ文化発信の場として活用。

■御成町



68 昭和の木造西洋館

昭和6年(1931)築、ドイツ帰りの父の中学先輩弁護士さんの人が建てたものと聞いています。

昭和45年7月、安田三郎氏撮影の左、モノクロ写真当時は周辺から見えましたが現在は全く見えなくなりました。

右のカラーが現在の姿です。鏝戸開閉の窓は未だ当時の匂いを残して居ます。

■由比ガ浜二丁目



69 越南VS鎌倉？

建物は現在イベントスペース、貸スタジオなどに使われ、所有者ご自身で運営しています。

建物は構造材から造作にいたるまで、贅沢な材を遊び心をもってふんだんに使っていました。

これだけの建物を維持するために大変な努力もされているということを知り、現実的な問題も踏まえ、これからの時代に合った文化の維持継承がどうあるべきかを多方面から考える必要性を感じました。

■長谷一丁目



70 I邸とその周辺

I邸は、門のしつらいと竹の生け垣、庭の植栽、垣間見える日本家屋の様子が何とも言えない趣きを呈します。小路を挟んだ周辺の大きな邸宅も生け垣や建物の様式こそちがえ、同様に実に落ち着いた雰囲気と、ともに小道全体の景観を素晴らしいものにしてます。この閑静な小路が生活道路とも言うべき通りになっており、日々往復する人々を和の雰囲気の中に呼び戻してくれているようです。

■小町二丁目



71 佐助の家

美しく刈り込まれた生け垣がピシッと決まり、昔ながらの門柱と建物玄関脇の石灯笼とその周りの植え込み、生け垣に沿った、道路から見える庭木の風情など、平屋建ての建物と実によく合って、すっきりとした印象を与えています。長年大切に住み継いで、隅々まで行き届いた手入れをされているであろう持ち主の心意気が伝わってくる邸宅です。シンプルでありながら風格ある建物が、昔ながらの鎌倉の雰囲気余すところなく伝えています。

■佐助二丁目



72 R

稲村ガ崎の古い建物の代表とも言える、ここRさんは、多くの人達が、自然と足を止めて観て行きます。

オーナーの古いものを大切にすることが建物にも顕著に表れていると思います。そして、物が有り余る現代に、相反する姿勢が非常に共感します。

これからの鎌倉のまちなみはこのような古民家の景観が増えることを強く願望します。

■稲村ガ崎三丁目



73 熊倉洋介建築設計事務所

半世紀前に建てられたこの和風建築は、道から見える外観が落ち着いた風情を醸していますが、内部にも伝統的な茶室の意匠が用いられていて、建物そのものから学ぶところが多いです。こうした優れた古民家を受け継いでいくことは大切だと思い、設計アトリエとして活用しています。

■材木座五丁目



74 0467Hase kamicho

築80以上を経た平屋の古民家を、現代の鎌倉らしさを意識してモダンにリノベーションしたレストランです。周辺の景観に配慮し、外観は概ね昔の形を留めながら内部を現代の生活様式に合わせています。良好な景観形成とまちの記憶を繋いでいます。

■長谷三丁目



75 手打ちそば 茶織菴

大正13年に商家として建てられ、時代の流れと共に菓子屋、陶芸教室と変遷してきました。構造体はそのままとしつつ、横町のまち並みにそったデザインにしたいという思いをかなえました。雪ノ下3丁目という場所は鶴岡八幡宮のおひざもとでもあるので出来るだけ鎌倉らしい建物、それは日本伝統建築を生かしたファサードとしました。露地にみだた小さなつくばい・杏脱ぎ石・四季折々の草花や沙羅双樹を植えて、建物の正面デザインとバランスを取るよう考えました。

■雪ノ下三丁目



76 垣根にサルスベリのある風景

垣根に沿って並ぶ百日紅の大木たちが、夏場に3か月余にわたって淡い紅色の花を咲かせ続け、道行く人々を楽しませてくれます。向かいの報国寺を訪れる観光客も思わずカメラを向ける見事さです。花の咲く百日の間、路上に散る花弁を毎日掃き集めるこの家の家人たちの、近隣や公共を思いやる心が、風景と一体となって地域社会のたいへんいい雰囲気をつくりだしています。百日紅の奥に垣間見える昭和3年に建てられたと聞く古民家も奥ゆかしいです。

■浄明寺二丁目



77 苔むした鎌倉石の石垣

鎌倉の特徴ある風景の一つに、鎌倉石を利用した家づくりがあります。鎌倉石は、古い時代から礎石や石垣、地覆石、庭石など多用途に使われてきました。保水性があるため長い時間に苔むして自然となじむ鎌倉独特の景観づくりに一役買っています。当該箇所は、宅地をつくるため、鎌倉では数少なくなった鎌倉石を積み上げた石垣で、初夏にイワタバコやヤマユリが生え、宅間ヶ谷の景観価値を一層高め、散策の人達に一服の清涼感を与えています。

■浄明寺二丁目



78 明王院横の日本家屋

趣ある門、手入れの行き届いた庭、木々の間に見える端正な建物です。今はほとんど見られなくなった座敷前の長い廊下と障子に懐かしさを呼び込まれます。

日本のよさを実感させてくれる建物です。

■十二所



79 めじろや



■台二丁目

80 稲葉材木店



■小袋谷一丁目

81 山ノ内の家



■山ノ内

82 侘助・ささや



■山ノ内

83 昭和初期の鎌倉の商家「Y」建物

商家「Y」建物は、関東大震災後の昭和初期（昭和5年）に建てられた当時の鎌倉における豪商の代表的な建物です。

建物は、太い大黒柱、大きな松の梁や天井板など今では入手困難な材料が使用され、それを宮大工の匠の技で見事に組み上げています。建物が建築されて84年になりますが、大きな修繕をすることも無く、むしろ年月を経て更に重厚感を増し、その伝統ある建築技術（宮大工の技）に驚かされます。



■台

84 亀ヶ谷切通し

北鎌倉から緑豊かな亀ヶ谷切通へ向かう道に面した石垣です。立派な石積みと上部の緑の組み合わせが美しいです。石垣も苔むしており、また石の間からは草が茂っています。切通への道の風情を豊かなものにしてるのでおすすめです。



■山ノ内

85 山ノ内門塀

浄智寺から源氏山への道の途中の民家の門塀です。昔ながらの形を維持しています。門の屋根の苔が風情があります。この道沿いには多くの美しい門や塀が続き、鎌倉随一美しい街路だと思えます。



■山ノ内

86 山ノ内の家（門、石垣、生垣のたたずまい）

亀ヶ谷切通しの山ノ内側入り口にあつて、実に風格のある邸宅です。堂々たる石垣と生垣でありながら少しも威圧感を感じさせず、住まう方の品格を感じさせる。邸宅は道路より高いところに位置し、瓦屋根と白壁の一部しか植栽の間から見えますが、そのことがかえって石垣とその上の生垣の素晴らしさと相まって、端正さを際立たせます。長寿寺の外塀に続く邸宅の景観は、中世の鎌倉のおもかげを残す亀ヶ谷切通しの入り口にまさにふさわしいです。



■山ノ内

87 浄智寺奥の路沿いの景観（生垣と和風建築の家々）

もし今の鎌倉に、浄智寺奥の谷戸の風情が至るところに受け継がれていたらと思わずにはられません。このような景観を普通のこととして守り継ぐことにこそ市民と行政の良識が問われていると言えそうです。この谷戸に足を踏み入れて、しみじみと「ああ、いいなあ」と思わない人はいないのではないかとすら感じます。

日本の良さを見直し、それに浸れる貴重な空間です。



■山ノ内

88 北鎌倉駅徒歩1分から始まる別世界（「きもの一文字」のある小路）

現在の車社会からは想像を絶する環境に、こんなにも豊かな住環境があるのかと思える景観です。まさに小路、しかも曲がりくねった小路をはさんで、昔ながらの生垣や石垣、石塀が様々な姿を見せながら、個々の建物もそれぞれに趣のある風情を添えて、人々の感性に訴えます。小路入口付近の「きもの一文字」の店構えも、落ち着いた和の空間に貢献すること大です。「～庵」「～店」と雅号を冠した邸宅が小路に更なる風格を与えます。



■山ノ内

89 大船軒



■岡本二丁目

アンケートへのご協力
ありがとうございました。

また、たくさんのご応募
ありがとうございました。